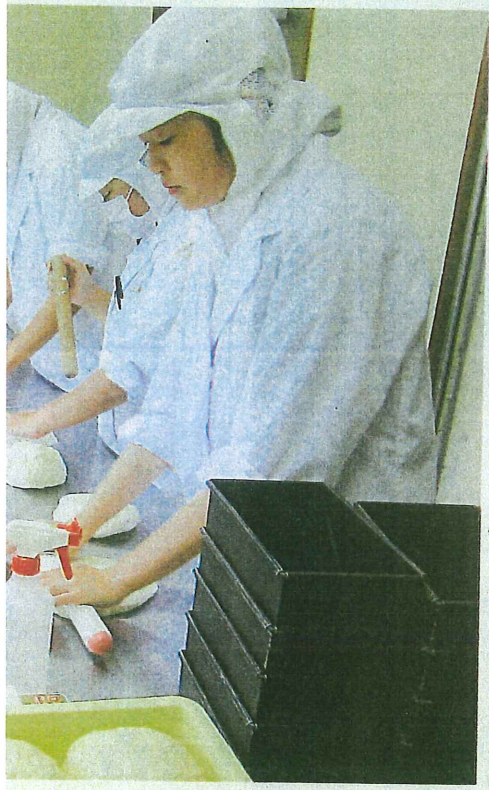


「ソ」でパン作り

【小平】留萌管内産小麦粉「ルロロン」を使った加工実習教室が町内の「ゆうゆうそう」で開かれ、遠別農業高の生徒7人がパン作りに挑戦した。

地元産ルロロンのPRに取り組み留萌振興局が主催し、8月28日に開かれた。町内の農業者らでつくる住吉学業婦人部のメンバーたちが講師を務め、食パンや菓子パンを作った。

遠別農業高の食品コースで学



障害者就労支援の稚内市北光園

水耕野菜工場を新設

フリルレタスなど生産

【稚内】社会福祉法人稚内市社会福祉事業団は、障害者の就労継続支援B型事業所「稚内市北光園」（富十見5）に水耕栽培の野菜工場を新設し、フリルレタスなど葉物野菜の栽培を始めた。工場名は「最北の野菜工場ひかり菜」。従来のクリーニング事業に野菜生産の業務も加え、障害者雇用の場を広げる。

（岩崎志帆）

社福事業団施設に販売

同園は障害者の自立を支援する事業所で、施設の空きスペースだった約350

平方メートルを改装した。高さ約2メートル、奥行き約1.5メートル、幅約4.1メートルの生産棚2台を設置。発光ダイオード（LED）と水、液肥を使い、害虫や天候に左右されず無

農薬の野菜を育てることができる。育てるのはフリルレタスとグリーンリーフの2種。2台で1日最大で計152株を生産できる。種まきや育った苗の移し替え、収穫、包装などの作業を同園の利用者と職員の手で行う。

収穫した野菜は同法人の施設に販売し、利用者へ提供する。同園の定員は40人。身体障害者授産施設として開園した1983年からクリーニング業を手掛け、心身に障害のある人に就労の場を提供してきた。これからは野菜工場の作業も合わせて、適性に応じた作業に就くことができるようになる。初めての収穫は10月上旬を予定している。同法人の満保和吉常務理事は「事業を2本立てにすることで、利用者の就労意欲と賃金の向上につなげたい」と話す。今後、生産状況などを見て販路の拡大や施設の拡張も検討するという。

新組合長に荒木氏

役員総辞職の利尻漁協



荒木一雄氏

ならず、必要な手続きをしなければならなかった責任を取り、全役員が7月に総辞職していた。

荒木氏は旧鶴泊村（現利尻島内4漁協が合併して利尻島内4漁協）出身。08年に利尻島内4漁協が合併して利尻島内4漁協として発足した。

旭川—稚内 315キロ



【利尻島内、利尻】全役員

JR旭川駅 宗谷岬までの 日間で3時間 乗車「テッポウ」